

高度救命救急センター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 嶋津 岳士

その他、病院教授1名、講師1名、助教7名、医員11名、MSW2名、病棟事務補佐員1名（助教は特任を含む。）

2. 診療内容

重度外傷、広範囲熱傷、急性中毒、多臓器不全、循環器疾患（心筋梗塞、心不全、大動脈瘤など）、脳疾患（脳卒中、脳梗塞など）、急性腹症（重症膵炎、汎発性腹膜炎）、感染症（肺炎、敗血症など）、心肺危機などの重篤な急性病態を対象とした三次救急医療施設である。

3. 診療体制

当センター内に専用の2管球高速ヘリカルCT、血管造影装置、検査室、集中治療室（20床）を備え、24時間体制で上記の重症患者を受け入れている。当センターでは各診療科の全面的な協力を得て、あらゆる救急患者に最高の医療を提供できる体制が常に整備されている。

なお、当センターでは、救急隊による現場からの直接搬送及び他医療機関からの紹介による入院のみを受け入れており、一般患者からの直接の入院希望には対応していない。

また、当センターでは病院内で発生した突然の心肺機能停止に対応するために、集中治療部とともに院内各部署からのCPRコールを受けて現場へ急行する体制をとっている。

4. 診療実績

旧体制（中之島地区、特殊救急部時代）の時期は、大阪府の三次救急医療施設として重度外傷を中心に、年間約300名の重症救急患者を受け入れていた。吹田地区への移転後、特に救命救急センターとして改組された平成12年度以降、受け入れ患者数が著しく増加しており、平成13年には高度救命救急センターとして認可を受けた。受け入れ対象の傷病構造も大きく変化し、外傷と疾病の救急患者数がそれぞれ30%、60%程度となっており、それ以外には熱傷、中毒、ガス壊疽や破傷風といった特殊感染症、蘇生後脳症、各種臓器不全・ショック、原因不明のCPAOAなどを含む特殊病態の治療を行っている。平成17年度には本院に脳卒中センターが、平成19年度にはハートセンター（循環器疾患救急）が開設され、内因性二大救急疾患への対応がより強固なものとなった。当センターもその一

翼を担って、さらに充実した地域医療・広域高次救急医療を提供できる体制が整った。令和元年度の当センターにおける全収容患者は1042名であった。また、令和2年、COVID-19重症患者に重症治療部と連携して積極的に対応し、大阪府からの要請にも柔軟に応じた。

平成20年1月、大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。当センター医師・看護師スタッフが同乗して救急患者の受け入れ・搬送を行っている。大阪府下全域のみならず、和歌山、奈良、京都の一部もカバーしている。令和元年度は146件の実績であった。航続距離600kmを活かした災害派遣にも貢献しており、平成23年の東日本大震災、平成24年の京都府亀岡市集団災害時にはドクターヘリスタッフが現場出勤し、医療活動に従事した。平成25年度より関西広域連合のもとでの活動を展開している。また、令和2年度からは、ドクターカー、DMATカーの運用も開始する予定である。

5. その他

当センターの前身である特殊救急部・災害外科は昭和42年に、わが国で初めての本格的な重症救急の専門施設として開設された。斬新な救急医療を実現した当時の活動は、NHKテレビ「プロジェクトX」でも紹介された（平成14年7月）。その歴史を通じて、既成概念にとらわれない先駆的な診断・治療技術の開発、より良い救急医療システムの構築をめざす姿勢は一貫して変わらない。

最近の主なトピックスとしては、脳低温療法の研究、遷延性意識障害（いわゆる植物状態）を呈する症例の意識回復に関する研究、敗血症・外傷・熱傷・ARDS・DICなど重症病態の解明とその制御に関する研究、超高速ラセンCTネットワーク・CT一体型初療室の構築と新たな外傷治療の開発、画像伝送を用いた地域救急医療支援システムの構築、生物化学テロ・大規模災害への取り組み、心肺停止症例の社会復帰率改善へむけた脳酸素飽和度モニター・機械的心肺補助の積極的導入、重症救急症例への経腸栄養投与の工夫による感染症合併の制御、院内感染対策、院内急変患者に対する先進的取り組みなどがある。

本院は大規模災害時の災害拠点病院としての使命を負っており、当センターはその中心的役割を担っている。平成23年東日本大震災では、震災翌日から当センターのスタッフを中心とした大阪大学医学部附属病院DMAT隊（災害派遣医療チーム）と大阪府ドクターヘリが被災地に入り、支援活動を行った。平成28

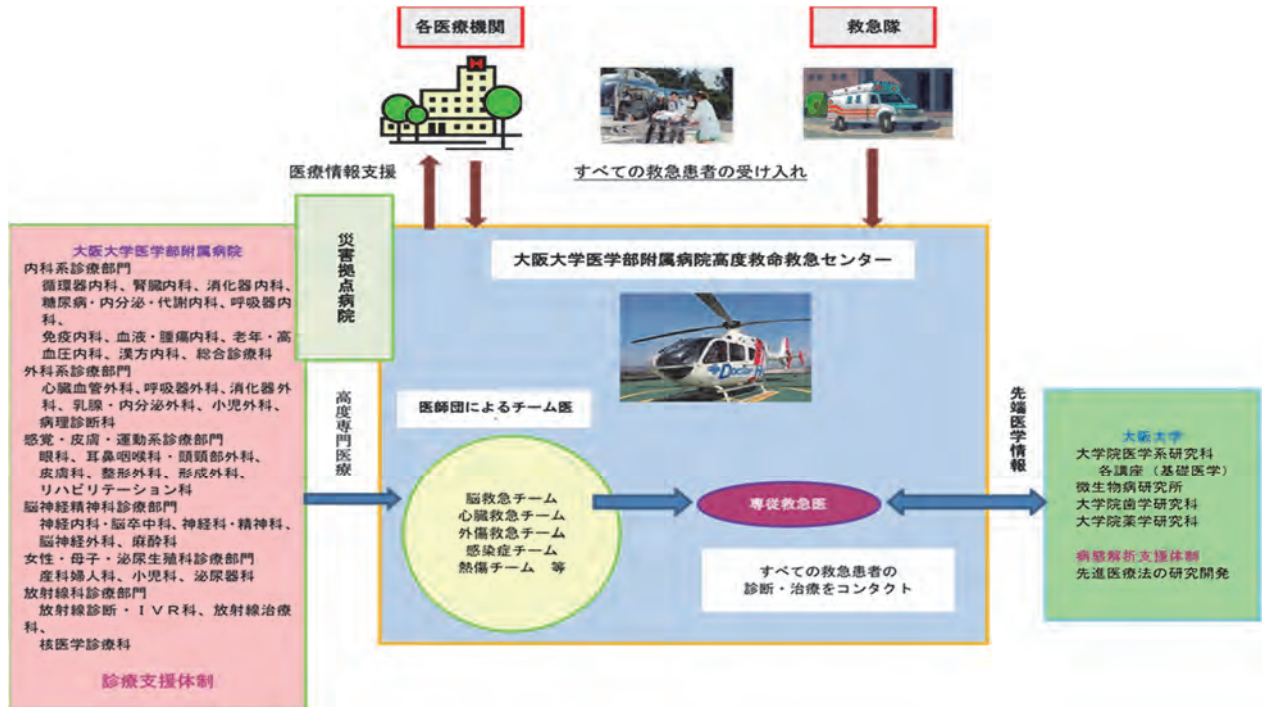
年熊本震災の際にも DMAT 隊が 2 隊現地に出動し、支援活動に従事した。また、平成 30 年大阪府北部地震及び台風 21 号による災害においても、DMAT として積

極的に活動した。

日本救急医学会 専門医 23 名、指導医 6 名

日本救急医学会専門医・指導医認定施設

高度救命救急センターの診療体制



入院診療実績（延べ人数）

傷病分類		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
疾病	脳神経疾患	129	121	189	204	214
	心臓・血管疾患	106	114	159	157	127
	腹部疾患	68	78	87	88	57
	代謝性疾患	14	19	11	15	13
	呼吸器疾患	27	10	18	28	28
	その他	219	240	283	317	281
	小計	563	582	747	809	720
外傷	頭部外傷	61	61	54	52	50
	胸部外傷	9	12	14	5	13
	腹部外傷	7	5	8	10	12
	四肢外傷	51	38	43	53	25
	骨盤外傷	2	3	1	4	4
	脊椎・脊髄外傷	31	17	18	17	18
	多発外傷	85	84	89	91	66
	その他外傷	43	58	77	61	82
小計	289	278	304	293	270	
熱傷	11	6	15	13	9	
中毒	13	28	19	27	27	
その他	81	47	37	24	16	
合計	957	941	1122	1166	1042	